



↑木綿畑新田集会場の一角には、役目を終えた昔の面が並べられている



## 面

表情豊かな面の数々。長年使っていると塗装が剥げてポロポロになってくる。30年以上前、面づくりを趣味としていた大田原市の前原氏によって製作された



# 物

祈りを飾る  
道具たち

舞台に広がる神話の世界観を音、表情、色で飾る道具の数々。舞だけではなく、これらの道具も長年継承され、大切に使い続けられている。

舞を先導する3種の楽屋<sup>がくや</sup>。こちらの習得も容易ではない。舞と息を合わせなければいけないため、舞を理解しているものにしか扱えない

楽屋1

## 笛



楽屋2

## 小太鼓



打力の強弱によって、舞に臨場感を持たせる

楽屋3

## 大太鼓



## 衣装

衣装は全て特注品。約30年前に新調したが、最近ではほつれも目立つ。今は地区の女性が補修に携わり、神楽を支えている



年季の入った支柱。長く使われてきた歴史が垣間見える



神楽殿は奉納当日に地区の住民によって組み上げられる

## 神楽殿



神々が舞う際、合間に鳴らされる鈴。“シャン”という音が、舞にアクセントをつける

## 鈴

役の数だけ表情がある  
神、青鬼、白狐、ヒヨットコなど、面は役の数だけ表情豊かなものが用意される。全て木彫りで、見事に表現される顔の滑らかな曲線。リアルで強烈な印象を感じないだろうか。  
奉納のたびに組み上げる神楽殿  
神楽が披露される舞台を神楽殿と呼ぶが、木綿畑新田の場合は奉納当日に全戸から1人ずつ出役して組み上げる。午前8時頃から組み始めて3〜4時間かかり、午後からは神楽の奉納が行われる。